# 後期選抜講評

平成30年度 宮城県公立高等学校

仙台あおば学舎 講師陣による 後期選抜講評

今年度も、あおばくの後期選抜講評が、読売新聞に掲載されました。

【国語文責】鈴木愛由夢
【数学文責】池田慎太朗
【社会文責】吉田宙史
【英語文責】豊巻奈緒子
【理科文責】池田慎太朗

平成30年3月7日 讀賣新聞 朝刊

## 公立高後期 1万1286人挑む

### 全日制平均1・14倍

県内の公立高74校で6日、2018年度の後期選抜入試が行われ、1万1286人が臨んだ。全日制は募集人数9718人に1万1041人が受験し、平均倍率は1・14倍で前年度を0・05ポイント下回った。定時制は募集人数853人に対し、2445人が受験し、平均倍率は0・29倍（前年度0・31倍）だった。学校・学科別で競争率が最も高かったのは、仙台三・理数科で2・48倍。次いで、仙台工・機械科2・07倍、宮城農・食品化学科1・96倍だった。

16年度に新設された災害科学科がある多賀城高（多賀城市）では、受験生は見送りに来た親に励まされながら緊張した面持ちで会場の校舎に入った。黒川郡内の男子生徒（15）は「不安もあるけれど、本番はリラックスして今までの努力を出し切りたい」と気合を入れていた。

合格発表は14日に行われ、2次募集は15～19日に出願を受け付ける。

◇

県教育委員会は6日、後期選抜入試が実施された涌谷高（涌谷町）で、放送機器の不具合で英語のリスニング問題が全教室で流れないトラブルがあったと発表した。同校では予備のCDプレーヤーに切り替え、中断した3分間を延長して試験を行った。原因は調査中という。

**公立高入試問題と正解 別刷り特集面に掲載**

## 出題方針と講評

県教育委員会に各教科の出題方針を聞き、学習塾「仙台あおば学舎」の講師陣に問題を講評してもらった。

### 国語

【出題方針】第1問は登場人物の様子や心情を読み取る表現力を探った。第2問は論理的な展開を掘える力、第3問は俳論書「三冊子」を題材に、古典の基礎的な知識や理解力を問うた。第4問は基礎的な漢字や読み書きを出題。学校コンクールの紹介についての話し合いをテーマに言葉の活用力などをみた。第5問は俳句の中から選択した理由を書き、発想力と表現力を試した。

#### 全体的に容易

大問の五つは例年どおりだが、全体的として易しめだったように思う。

第1問の文学的文章は、主人公が祖母との昼食を通して、父の知らなかった一面や主人公が初めて感じた気持ちを表現した文章で、いずれも解答しやすかった。

第2問の説明的文章では、「科学」という理解しづらい内容を具体例などを通して、筆者なりの意見を述べている。全体の内容をふまえた上で、記述問題を解答することができたかがカギ。

第3問の古文は、文法事項などの設問が見受けられず、内容の読み取りに焦点が当てられた。「鵜匠」の発言内容をどのようにまとめるかがポイントになる。

第4問の問1は「厳かな」を知っていれば、満点を獲得できるレベル。問2はいずれも基本的な内容だった。

第5問の作文は、「春」の季語を含んだ俳句を題材にした。前提となる俳句の意味を理解できないと、解答するのが難しかっただろう。

（鈴木愛由夢講師）

### 数学

【出題方針】「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域で基礎的な知識や考察力をみた。第1問は標本調査から母集団のおよその個数を求める力などを問うた。第2問は連立方程式を計算し、関数のグラフを活用する力をみた。第3問は関数的な見方をもとに、二つの数量や関係を式やグラフに表現する力を試した。第4問は三平方の定理を活用して論理的に解決する力を探った。

#### ほぼ例年通り

第1問の計算問題は、例年と難易度に変化はない。

第2問も例年通りで、比較的基本的な問題が多い印象を受ける。1の連立方程式の問題、2の図形、3、4に二次関数、確率と続いたが、しっかりと問題文を読み、的確な解答を示せているかが重要となる。難易度よりもミスの有無が結果を分ける。

第3問の関数は、ロープウェーやリフトの移動から、距離や時間の変化を扱った問題だった。関数は苦手な生徒も多く平均点を下げる単元だが、第3問の1、2は確実に得点したい内容だった。最終問題では情報量の多さに苦労する学生も多かったのではないか。

第4問にも例年通り図形が出題された。前半は簡単だが、最後の問題3では難易度が上がる。三平方の定理を利用し算出できる辺の長さを出し、相似の長さを求めていく。計算も細かくなり、答えを導き出すために必要な三角形が拾い出せるかがカギ。

（池田慎太朗講師）

### 社会

【出題方針】地理、歴史、公民の3分野で知識や表現力をみた。第1問は「南アメリカ州の農業」を題材に、地図や資料から考察する力を問うた。第2問は人権や内閣に関する基礎的知識を探り、現代の社会保障に関する資料を読み取らせた。第3問では古代から近世までの政治に関する知識などをみた。第4問は日本の工業地帯、第5問では日本企業のものづくりについて基礎的知識などを試した。

#### 防災の問題も

昨年度と比べて、難易度は少し上がり、平均点は減少すると思われる。簡単な問題が多くあると一方で、配述や資料読解などでは経験値が必要とされる設問が増加した印象がある。

第1問は地理から出題され、農業や気候、地形など資料を読み解く力が問われ、正答率が低くなるだろう。

第2問の公民は基本的人権と社会保障に関する問題。記述は社会保障給付費が増加した理由が問われたが、対策をしていれば答えやすかったように思う。

第3問の歴史は、いずれも難易度は低い。寛政の改革における政策に関する問題では「防災の観点」から答える。今後の受験生は防災・減災の視点を持ち、日常生活を過ごす必要があると感じさせるものだった。

第4問は日本の工業に関する地理・歴史の融合問題。資料の読解を慎重に行えたかがポイントとなる。

第5問は比較的出題率が低い語句が問われた。教科書をもとに、幅広く理解する必要がある。

（吉田宙史講師）

### 英語

【出題方針】第1問は中学生と外国語指導助手（ALT）の会話を聞き、内容を理解する力などをみた。第2問は基本的な文法に関する知識や語彙力を問い、第3問は英文の要旨を正確につかむ力を試した。第4問は図書館の利用者数に関する高校生と留学生との会話を題材に、長文から内容を読み取る力を問うた。第5問は、情報や自分の考えを適切に英語でまとめる力をみた。

#### 文法知識で差

全体的に文脈を読み取る力を試す問題が多く出されたが、難度が極度に高い問題はなかった。そのため、中学3年で習う文法の知識が定着しているかどうかで差がつく問題構成だった。

第1問は例年通りリスニングの出題。第2問では選択肢から正解を選び出す文法力と単語力が問われ、時制や動名詞が身に着いているかが試された。

第3問はイベントの企画に関わる生徒会活動がテーマの長文問題。文章を読み取り、正しいイラストを選択する設問を含め、総合的に選択問題の割合が増加し、昨年に比べ正答率上昇も予想される。第4問は、図書館利用についての会話が題材。関係代名詞や間接疑問文の知識が必要とされ、短文の並び替え問題は出題されず、適切な英文を選択する設問が増えた。

観光客を手助けする場面を取り上げた第5問は、やや難易度が上がった印象を受ける。場面設定を理解した上での説明力・表現力が問われた。

（豊巻奈緒子講師）

### 理科

【出題方針】第1問は葉の細胞の観察、日本列島付近のプレート、発電機が作り出す電流、粉末を混ぜた時の化学変化が題材。第2問はジャガイモの生殖から遺伝の規則性を考察する力を問うた。第3問は小球の運動を調べる実験から力学的エネルギーを考える力などをみた。第4問はイオンのでき方や化学反応式に関する知識、第5問は金属の性質や飽和水蒸気量などを思考し判断する力をみた。

#### 難易度上がる

昨年に比べて全体的な難易度は上がったように感じた。聞き慣れない理科の用語を答えさせる設問もあり、受験生の盲点をついたといえる。基礎の定着度を測り、記述式の問題では受験生の学習量の差がついた。

第1問は例年通り小問集合。化学・生物・地学・物理の4分野から出題された。地学のプレートは珍しい出題だった。

第2問の生物では、栄養生殖を答える設問に答えられない受験生も多かっただろう。

第3問の物理は、時間と小球の移動距離との関係を表すグラフが2次関数になることに気付いたかどうかがポイントとなる。位置・運動エネルギーを比で表す問題や光の道筋の作図の難易度は高かった。第4問の化学では、イオンや化学反応式は容易だった。

第5問は湿度と天体。飽和水蒸気量を求める内容は定番だった。太陽の一日の動きを題材にした南中時刻の問題は、普段の学習量で差がついたと思われる。

（池田慎太朗講師）

SENDAI AOBA GAKUSHA
NEW POLICY
集団指導、完全個室個別指導、自立型個別指導。
そのすべてがチーム あおばく。
チーム指導が活きる
5科目10,000円台
進学塾 仙台あおば学舎
個別指導の仙台あおば学舎

平成30年度 宮城県公立高等学

# 前期選抜講評

仙台あおば学舎
講師陣による
前期選抜講評

今年度も、あおばくの
前期選抜講評が、読売新聞に掲載されました。

【国語文責】吉田宙史
【数学文責】池田慎太朗
【英語文責】豊巻奈緒子

（第3種郵便物認可）　2018年(平成30年)2月1日(木曜日)　讀賣新聞

平成30年2月1日 讀賣新聞 朝刊

## 公立高で前期入試
### 74校に8340人が挑む

県内の公立高校74校で31日、2018年度の前期選抜試験が行われ、8340人が挑んだ。全日制は4814人の募集に対し、8126人が受験し、平均倍率は1・69倍（前年度1・64倍）。定時制は296人の募集に214人が受験し、平均倍率は0・72倍（前年度0・66倍）だった。

前期選抜試験は、各学校が設定した内申点などの条件を満たす生徒が受験できる。国語、数学、英語の3教科の共通問題と、面接や小論文といった学校ごとに独自試験が行われた。受験倍率は、仙台一・普通科で7・08倍。宮城農・食品化学科4・38倍、仙台三・普通科4・17倍と続いた。

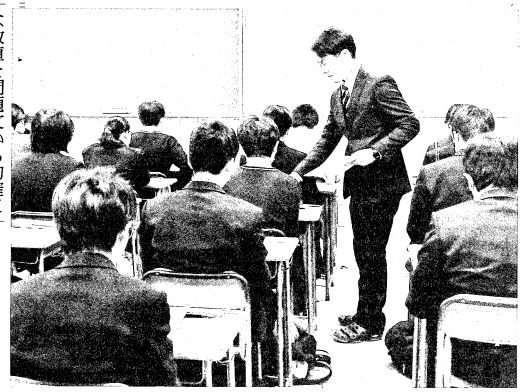
最も受験倍率が高かった仙台一高（仙台市若林区）では、64人の募集に対し453人が受験した。緊張した面持ちの受験生たちは校門前で待つ20人以上の進学塾の講師に「できるよ」「落ち着いて」と激励され、校舎へ向かった。市立多賀城中3年の鈴木柊君（15）は「ずっと行きたいと思っていた憧れの学校。全力を出し切れるよう頑張りたい」と意気込んでいた。

合格発表は8日午後4時に、各学校で行われる。

◇

県教育委員会は31日、国語の問題に誤記があったと発表した。写真と言葉を題材にした問題で、「できても」とすべき部分を「でできても」と表記していた。

試験会場の教員から指摘があり、県教委は訂正を指示したが、終了間際で一部の受験生に周知されなかった。このため、この設問は全員正答とする。



公立高の前期選抜入試に挑む受験生
（31日、仙台市若林区の仙台一高で）

## 出題方針と講評

県教育委員会に各教科の出題方針を聞き、学習塾「仙台あおば学舎」の講師陣に問題を講評してもらった。

### ■国語

【出題方針】第1問は、登場人物の心情などを読み取り、適切に表現する力をみた。第2問では、書き手のものの見方や考え方を的確に捉え、適切に表現する力を測った。第3問は、中学校のクラスで行われた報告会のリハーサルを題材に、言語の知識を活用する力や、目的や相手に応じて説明を工夫し表現する力をみた。第4問は、基礎的な漢字を読み書きする力や行書の特徴、歴史的仮名遣いなどの知識や理解を探った。第5問の「漢文」は、古典の基礎的知識や理解を基に内容を把握し、古人の考え方を的確に捉える力を試した。

基礎レベルの文法も

第1問の文学的文章は、吹奏楽部で奮闘する高校1年生の主人公の不安や喜びの感情を読み取り、記述形式で表現できたかが鍵となる。

第2問では、活躍した写真家の著書から、日本を代表する写真家が考える「写真」と「ことば」という異なる「記号」を正確に読み取る必要があった。

第3問は、毎年出題されている「話す・聞く」に関する問題。聞き手に説明する上での工夫を読み取り、考察できるかが問われた。

第4問では、漢字の出題と、基礎レベルではあるが、文節・品詞などの文法の問題が出題された。

第5問は昨年度に引き続き「漢文」が大問として出題された。基本的内容が多い中、訓読を行わない「置き字」の知識を持ち合わせているかが、明暗を分けるだろう。（吉田宙史講師）

### ■数学

【出題方針】計算、図形、関数、資料の活用について、基礎的な知識や考察する力をみることを狙いとした。第1問では、反比例の比例定数を求め、順序よく整理する力や活用力を測った。第2問は、空間図形を考察し、図形の面積の関係性を式にする力などが求められた。第3問では、変化する二つの数量関係を式やグラフとして表現する力や、条件に合わせて論理的に考える力をみた。第4問では、三平方の定理を使い線分の長さを求める力や、円周角の基本的な知識を活用して答えを導き出す力をみようとした。

応用で考える力試す

全体としては、知識よりも、応用問題で考える力が求められた。

第1問は、計算、基本問題が中心で難易度も例年通りだったが、後半は若干難易度が高い。確率や角度の計算も応用力を問われた。全体を通して「考える力」を測る傾向にあった。

第2問は例年に比べ、単純な計算が減り、難易度が上がったといえる。前半は基本に沿えば難しくはないが、後半は体積から高さを逆算する、面積比から座標を導き出す、などの応用力を試す問題が続いた。

第3問は、精米機2台の作業時間と残量の関係性を取り上げた。後半の時間を求める問題は、答えに必要な数値を問題文から的確に拾い出せたかがカギ。

第4問では、後半の面積を問う問題の難易度が高く、正答率も低くなったとみられる。（池田慎太朗講師）

### ■英語

【出題方針】第1問は、絵を見て、会話の内容を理解する力や、質問や会話の流れを読み取り、適切に答えられるかをみた。第2問では、基本的な文法や語法に関する知識や語彙力を測ろうとした。第3問は、顔を合わせて話すことの大切さに気づいた高校生の英文を題材に、全体的な内容を読み取る力を探った。第4問では、屋敷林についてスピーチを準備する高校生が留学生にその内容を説明する会話文を使い、話の展開を理解する力や英文の構成力を試した。第5問では自分の考えを簡潔にまとめ、表現する力をみた。

後半は読解力で明暗

全体の構成や問題数に変化はなく、前半は基礎力があれば解答できた。時間配分を含め、話の流れや登場人物の感情を把握する読解力が必要とされた第3、4問が明暗を分けただろう。

第1問では、短い会話文の中で適切な英文や強調する単語を選ばせた。第2問は、頭文字から単語を導き出す形式、複数形にする点を見逃し、失点となる生徒もいただろう。

第4問では、並び替え問題でやや難易度が増した印象を受けた。受け身や不定詞の使い方など、いくつかの文法知識を複合させないと正答にたどり着けない。指示語の内容の把握力や、文章の構成力も試された。

第5問は、ホームステイ中の友人との会話文に絡めた英作文。文の前後関係を把握できれば、比較的取り組みやすい内容だった。（豊巻奈緒子講師）

**公立高入試問題と正解 別刷り特集面に掲載**

チーム指導が活きる
5科目10,000円台

進学塾 仙台あおば学舎
個別指導の仙台あおば学舎